

2019年度岐阜アソシア事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

当法人が設置する「視覚障害者生活情報センターぎふ」が所期の目的を達成できるように、資金を確保して資金援助を行うとともに、岐阜県及び岐阜市の委託事業等を実施することにより、視覚障害者福祉の向上発展のために努めた。

1. 「視覚障害者生活情報センターぎふ」の経営

「視覚障害者生活情報センターぎふ」が、地域における視覚障害者福祉の総合センターとしての機能を発揮するように努め、事業をとおして「視覚障害者とともに生きる」社会作りを目指した。

2. 「障害者総合支援法」による同行援護、移動支援事業の経営

岐阜アソシア・視覚障害者居宅介護事業所を設置して視覚障害者・児を対象とした同行援護、移動支援事業を引き続き行った。ガイドヘルパー養成・スキルアップ講座、代読・代筆講習会を実施し、ガイドヘルパーの育成に努めた（延べ10回 受講者372名）。また、岐阜はもんの会の協力により、外出サポート事業を実施した（10件 延べ43名）。

3. 運営資金確保のための活動

「視覚障害者生活情報センターぎふ」を支援する募金活動を引き続き行ったほか、全国のキリスト教会及び教会が経営する学校・幼稚園・信徒等に対して協力依頼を行った。さらに、岐阜県内すべての小・中・高等学校及び幼稚園に「書き損じ葉書」の寄付を依頼するなどして、「視覚障害者生活情報センターぎふ」の運営資金の確保に努めた。

- (1) 「感謝のしおり第31号」を作成し、協力者1,600余名に配布して引き続き協力を依頼した。
- (2) 全国のキリスト教会・キリスト教系の学校・幼稚園並びに信徒等に対し事業への協力依頼文書を発送して資金確保に努めた。
- (3) 募金箱を近郊の書店、医療機関、ホテル及び岐阜県眼鏡商業協同組合（県下の同組合加盟眼鏡店80店の店頭）に設置）の協力により、一般市民の協力を依頼した。
- (4) 岐阜はもんの会の全面的な協力を得て、バザー&アソシアまつりを6月1日（土）に開催して約250名の入場者があった。収益として金1,256,100円を上げ、これを運営資金とした。なお、視覚障害者への配慮として、点字の値札をつけるなどして、多くの視覚障害者に買い

物を楽しんでいただいた。

- (5) 岐阜はもんの会の全面的な協力を得て、ひまわりの会から引き継いだ就労支援事業を実施した。2018年度分の収益として岐阜はもんの会から864,089円の寄付を受けた。
- (6) 岐阜県内のすべての小学校・中学校・高等学校及び幼稚園に対して「書き損じ葉書」の寄付を依頼した77校の学校、幼稚園からハガキ6,338枚、切手2,145枚、テレカ33枚の寄付があった。

4. 岐阜県・岐阜市からの受託事業

- (1) 岐阜県の「岐阜県からのお知らせ」点字版(標準サイズ、Lサイズ)、音声版(デジ版、テープ版、テキストメール版)、岐阜市の「広報ぎふ」点字版(標準サイズ、Lサイズ)、音声版(「あいメール」(デジ版、テープ版))、YouTube版の製作を引き続き受託製作して、視覚障害者への広報活動に協力した。
- (2) 県内公的機関の閲覧用冊子として、岐阜県議会の「岐阜県議会だより」点字版(標準サイズ、Lサイズ)、音声版(デジ版、テープ版)を受託製作して、視覚障害者への議会情報の提供に協力した。
- (3) 岐阜県から委託を受けて視覚障害者福祉事業(点訳奉仕員養成、音訳奉仕員養成、歩行訓練士派遣事業、中途失明者緊急生活訓練事業、点字版・録音版「視覚障害者福祉の手引」作成事業等)を、また、岐阜市から委託を受けてSPコード版・音声版「障がい者の明日のために(視覚障がい抜粋版)」を引き続き行い、視覚障害者福祉の向上のために協力した。また、2019年度より、岐阜県からの委託で新たに「視覚障がい者ICTサポート事業」の委託を受け、視覚障害者に対して情報機器講習、支援、サピエ図書館の利用推進を図った。

5. 関係機関、団体との連携

- (1) 岐阜県身体障害者福祉協会及び岐阜県視覚障害者福祉協会が行う視覚障害者福祉事業、岐阜県立岐阜盲学校及び同窓会、「視覚障害者の教育と福祉を進める会」の事業に協力し、視覚障害者福祉の向上に努めた。
- (2) 岐阜県社会福祉協議会及び各地域社会福祉協議会等が行う視覚障害者福祉事業に協力した。
- (3) 日本盲人キリスト教伝道協議会、日本聖公会社会福祉連盟に引き続き加盟してその活動に協力した。
- (4) 岐阜県図書館協会の図書館協議会に引き続き加盟し、県内の図書館の行う視覚障害者情報提供事業に協力した。
- (5) 社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会の「情報サービス部会」、「自

立支援施設部会」と、特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会に引き続き加盟し、技術研修及び情報の収集に努めるとともに、それぞれの団体の行うプロジェクトに委員を派遣し、事業に対して協力した。

- (6) その他、県内関係機関、団体に対して、視覚障害に関する助言をするなど連携を図った。

6. 「岐阜県の視覚障害者の今後を考える会」の設置

重複視覚障害者、高齢視覚障害者問題など、直面する問題解決を目的に、団体の参加を受けて会を組織するまでの確認をしたものの、2019年度は他の問題解決のため、会を開催するまでに至らなかった。

7. 防災意識の啓発

地域住民と災害弱者が災害時に共助できる社会構築を目指して防災フェスティバル2019を実施した。12月22日（日）に視覚障害者生活情報センターぎふを会場に「防災フェスティバル2019」として実施した。
(参加者106名)

2019年度視覚障害者生活情報センターぎふ事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

事業概要

職員9名によって幅広い事業活動を展開した。尚、この事業は岐阜はもんの会の全面的な協力を得て行ったものである。

情報提供部門では、引き続き全国の視覚障害者を対象に、点字図書・録音図書の貸し出し、点字図書・録音図書の製作、点字資料類の製作、岐阜県図書館との相互協力によるリーディングサービス事業、点訳及び音訳ボランティアの養成、拡大教科書製作、触図の製作、点字印刷・製本、館内閲覧業務、対面音訳サービス、パソコン操作相談サービス等の事業を行った。そのほか点字図書・雑誌類の購入や各種資料の収集によって蔵書の充実に努めるとともに、全国視覚障害者情報提供施設協会のネットワークシステムである「サピエ」の事業への積極的な参加、国立国会図書館が行う「点字図書・録音図書全国総合目録」の事業への継続参加によって視覚障害者への情報提供の充実に努めた。また、視覚障害者用デジタル録音図書・雑誌の製作に引き続き取り組み、デジタル録音再生機器の取り扱いを指導して利用の促進を図った。さらに、弱視者への情報提供として個別のニーズに応じて拡大写本サービスを展開した。

生活支援部門では、身近な窓口として視覚障害者からのあらゆる相談に応じたほか、視覚障害者の外出の機会を広げる外出サポート事業、日常生活用具の収集・展示、クラブ活動の推進などを継続実施して、多様化する視覚障害者のニーズにきめ細かく対応するとともに、岐阜盲学校で催されるオープンキャンパスにブースを設けて、小中高生に対してミニ点字教室を実施するなど、視覚障害者福祉の啓発に努めた。

日常生活技術指導部門では、歩行指導、パソコン指導及び中途視覚障害者に対する点字学習指導を引き続いて行ったほか、必要に応じて日常生活における基本的な技術指導を行った。そのほかにも、岐阜うかいネット(岐阜ロービジョンケアネット)に加盟して、埋もれている中途視覚障害者、ロービジョンへの相談、支援等を積極的に行った。

また、2017年度に視覚障害児・者・親の会「ひまわりの会」から就労支援事業を引き継いで、事業を継続させるとともに、事業所開設に向けて準備を進めた。

各事業の内容

(以下、施設名を「生活情報センター」と略す)

I 情報提供部門

事業実績（2020. 3. 31現在）

(1) 蔵書数

点字図書 8, 916タイトル (25, 864巻)

録音図書 5, 223タイトル (27, 572巻)

DAISY 図書 4, 625タイトル

(うち、自館製作 点字図書3, 135タイトル, 録音図書4, 052
タイトル、CD 図書1, 387タイトル)

(2019年度増加分)

点字図書 147タイトル (484巻)

厚労省委託 26タイトル (69巻)

自館製作 95タイトル (336巻)

複製 5タイトル (16巻)

購入 13タイトル (35巻)

寄贈 8タイトル (28巻)

録音図書 158タイトル (161巻)

厚労省委託 38タイトル (38巻)

自館製作 85タイトル (88巻)

複製 1タイトル (1巻)

購入 0タイトル

寄贈 20タイトル (20巻)

その他 14タイトル (14巻)

テキストデイジー 51タイトル

シネマ・デイジー 2タイトル

マルチメディアデイジー 1タイトル

(2019年度廃棄分)

点字図書 0タイトル

録音図書 0タイトル

(2) 貸し出し数

点 字 2, 078タイトル (4, 127巻)
うち、図書 680タイトル (2, 398巻)
雑誌 1, 398タイトル (1, 729巻)
(点字雑誌取扱数 26種 30巻)
録 音 10, 206タイトル (21, 640巻)
うち、図書 8, 916タイトル (10, 285巻)
(テープ図書取扱数 328タイトル 1, 679巻)
(デジター図書取扱数 8, 543タイトル 8, 558巻)
(オーディオCD 図書取扱数 23タイトル 26巻)
(テープまたはデジター図書取扱数 22タイトル 22巻)
雑誌 1, 290タイトル (11, 355巻)
(テープ雑誌取扱数 8種 10巻)
(デジター雑誌取り扱い数 73種 84巻)

(3) サービス実績 (一部再掲)

製 作	点 訳	
	蔵 書	95タイトル (336巻)
	プライベートサービス	132件 (2, 986ページ)
	音 訳	
	蔵 書	85タイトル (デジター84タイトル・テープ1タイトル) プライベートサービス 21タイトル (デジター21タイトル)

テキストデジター図書 蔵 書 51タイトル
シネマ・デジター図書 蔵 書 2タイトル
マルチメディアデジター図書 蔵 書 1タイトル

製 作 以 外	点字データ提供	4件
	点字打出し	10件 (4, 178ページ)
	コピー	414件 (CD・SDカードを含む)
	対面音訳サービス	延べ 4件8時間
	その他、代筆、墨字訳、触図、墨字入力、葉書印刷など	

(4) 来館者数

個人 6, 428名 (利用者2, 338名、ボランティア4, 090名)
団体 20団体 551名

1. 点字部門の製作と貸し出し

- (1) 点字図書の最新の出版情報及び「サピエ図書館」に登録される点字図書情報を常に把握し、利用者の要望に速やかに応えた。
- (2) 利用者の希望に応じて、県図書館が購入した新刊書を借り受けるほか、新たに原本を購入し、点訳ボランティアの協力によって点訳図書として製作して、希望者に提供した。また、点訳ボランティアの協力によって、利用者の希望に応じた自館製作図書の増加に努めた。製作に当たっては、点訳図書を読者に速やかに提供できるよう、点訳→校正→判定→修正→点検→製本→装備の一連の作業すべてにボランティアの協力を得て、それぞれの作業のスピード化を図った。なお、製作した点訳図書は「サピエ図書館」に登録して全国の共有財産とするとともに、常に着手情報を把握しながら重複製作を回避した。さらに、国立国会図書館総合目録にも登録され、全国の点字図書館、公共図書館等との相互貸借を行って図書館サービスの充実に努めた。

相互貸借の状況は次のとおり。

	他館所蔵図書借受数	自館所蔵図書貸出数
点字図書	337タイトル(1,314巻)	171タイトル(563巻)

- (3) 利用者の学習要求、情報要求に対して、「サピエ図書館」、その他インターネットを活用して幅広い分野での情報提供に努めた。
- (4) 点訳講習会を開催して新たに点訳者を養成するとともに、講習会修了者に対しては、最新の点訳ソフト、OCR等を導入、周知し、利用者に速やかに情報提供できるよう努めた。
- (5) 館報「長良川だより」(点字版362部、墨字版244部、メール版81通)を毎月継続発行し、利用者及び関係機関へのきめ細かい情報提供に努めた。「長良川だより」には、生活情報センターからのお知らせ、点字・録音新着図書案内、「サピエ図書館」に新しく登録された主な資料の紹介などを掲載した。
- (6) 日本書籍出版協会発行の「これから出る本」から抜粋(毎月約80タイトル分)し、点字版を継続発行し、希望者26名に配布した。これによって、墨字図書情報を提供するとともに、利用者の希望図書を把握して自館製作の点訳原本を決定した。
- (7) 点字交流誌「心」を年4回発行して希望者144名に配布し、利用者間の意見・情報交換の場を提供した。
- (8) Lサイズ点字プリンターを設置して、常時中途視覚障害者のLサイズ点字図書等の求めに応じられるよう努めた。

- (9) プライベートサービスにより、個人の必要とする資料等の即時提供に努めた。

2. 録音部門の製作と貸し出し

- (1) 録音図書の最新の出版情報及び「サピエ図書館」に登録される録音図書情報を常に把握し、利用者の要望に速やかに応えた。また、岐阜県図書館との相互協力によってリーディングサービス事業を行った。この事業では、利用者の希望に応じて、県図書館が購入した新刊書を借り受けるほか、新たに原本を購入し、音訳ボランティアの協力によって録音図書として製作して、希望者に提供した。
- (2) 音訳ボランティアの協力によって利用者の希望に応じた自館製作図書の増加に努めた。製作に当たって図書を読者に速やかに提供できるよう、音訳→校正→判定→訂正→編集→プリント→装備の一連の作業すべてにボランティアの協力を得て、それぞれの作業のスピード化を図った。なお、製作した録音図書は「サピエ図書館」に登録して全国の共有財産とした。また、国立国会図書館総合目録にも登録され、全国の点字図書館、公共図書館等との相互貸借を行って図書館サービスの充実に努めた。

相互貸借の状況は次のとおり。

	他館製作図書借受数	自館製作図書貸出数
テープ図書	170タイトル(865巻)	141タイトル(722巻)
デージー 図書	6,359タイトル(6,374巻)	1,366タイトル(1,366巻)

- (3) 音訳講習会を開催して新たに音訳者を養成するとともに、講習会修了者に対しては、デージー編集技術を習得してもらうなど、利用者に速やかに情報提供できるよう努めた。
- (4) 視覚障害者用デジタル録音図書の製作に取り組み、音声デージー84タイトル、テキストデージー51タイトル、シネマ・デージー2タイトル、マルチメディアデージー1タイトルのデージー図書を製作した。また、テキストデージー製作講座を開催して、編集スタッフの増強に努めたほか、デージー学習会(月1回)を開催してデジタル録音図書製作の知識・技術の向上を図った。
- (5) 館報「長良川だより」(デージー版114部、テープ版26部)で、「新着録音図書」を毎月紹介し、利用者及び関係機関へのきめ細かい情報提供を行った。尚、内容については点字版・墨字版とほぼ同様で

ある。

- (6) 日本書籍出版協会発行の「これから出る本」から抜粋（毎月約80タイトル分）し、墨字図書の新刊情報（デージー版 11部、テープ版 4部）を提供した。これによって、墨字図書情報を提供するとともに、利用者の希望図書を把握して自館製作の音訳原本を決定した。
- (7) 月刊録音雑誌サウンドパーク「心」を毎月製作して、デージー版186名、テープ版（C-90 1巻）81名の希望者（施設を含む）に貸し出した。
- (8) 「婦人公論 全文音声版」を毎月2回製作して、デージー版119名、テープ版（C-90 2巻）24名の希望者（施設を含む）へ貸し出した。また、「サピエ図書館」にもアップし、ダウンロード数3,964回、実人数2,323名の利用があった。「岐阜新聞 分水嶺」を毎月製作して、デージー版48名の希望者に貸し出した。また、「サピエ図書館」にもアップし、ダウンロード数336回、実人数212名の利用があった。また、前年度に引き続いて地域情報を提供するための録音雑誌「生活情報誌 月刊ぷらざ」を毎月製作して、デージー版44名、テープ版（C-90 1巻）9名の希望者に貸し出した。その他、月刊誌「JAFMATE」を毎月製作して、デージー版53名の希望者に貸し出した。また、「サピエ図書館」にもアップし、ダウンロード数287回、実人数185名の利用があった。
- (9) プライベートサービスにより、個人の必要とする資料（テキスト、音声デージー、テキストデージー、マルチメディアデージー）等の即時提供に努めた。
- (10) 利用者の希望に応じて、延べ4件（8時間）の対面音訳サービスを行った。
- (11) その他に、利用者の求めに応じて、日本点字図書館、日本盲人会連合、神奈川県ライトセンター等が製作するデージー・テープ雑誌をプリントして貸し出した。

3. 拡大写本サービスの充実

通常学級に在籍する弱視児童・生徒に対して、利用者個人からの依頼を受けて1教科4分冊の拡大教科書の製作をした。

4. 触図の製作

点訳図書原本にある様々な図・表等の作成に全面的に取り組んだ。

5. ボランティアの養成

- (1) 岐阜はもんの会主催で2019年度は「音訳ボランティア研修会」を行い、講師に安田知博氏を迎えて、会員・協力団体等を含めて53名が受講した。
- (2) 岐阜県の委託による点訳講習会（岐阜教室）及び音訳講習会（岐阜教室、山県教室）を2019年6月から2020年3月までの間に、それぞれ28回にわたって開催し、点訳13名、音訳13名、合計26名の修了者を得ることができた。またデジタル録音図書製作体制を強化するため、音訳ボランティア等を対象に、テキストデイジー製作講習会（6名修了）を開催した。
- (3) 点訳・音訳ボランティアの資質の向上を図るため、前年度講習会修了者を対象として「点訳勉強会」（岐阜・北方の2教室）及び「音訳勉強会」（岐阜・可児の2教室）をそれぞれ月1回開催してアフターケアに努めるとともに、毎月定期的に「点訳の集い」（岐阜・大垣・可児の3教室）、「点訳学習会」（岐阜1・岐阜2の2教室）、点訳校正学習会（岐阜の1教室）及び「音訳学習会」（岐阜・可児の2教室）、音訳校正学習会（岐阜の1教室）、デイジー学習会（岐阜の1教室）を開催して、点訳・音訳技術の向上に努めた。
- (4) 小中高生、福祉団体等から増え続ける施設見学に応えられるよう、施設案内講習会を開催して案内ボランティアの増員に努めた。
- (5) 映画の主音声に視覚情報の音声ガイドを付したシネマ・デイジー製作のため、ボランティア、視覚障害者を対象に月2回台本検討会を開催した。

6. ネットワーク事業への参加

パソコンで製作した点字データ、音声データの登録を行うなど、視覚障害者情報ネットワークシステムとして機能している「サピエ図書館」の事業に積極的に参加し、利用者サービスの向上を図った。

7. 点字印刷・出版、その他

- (1) 岐阜県広報紙「岐阜県からのおしらせ」点字版（月刊・26ページ・274部）及び岐阜市広報紙「広報ぎふ」点字版（月2回・32ページ・92部）の製作・配布を委託事業として行った。なお、中途視覚障害者をはじめ高齢によって点字の触読が困難になった読者には、Lサイズ点字版「岐阜県からのおしらせ」（34部）、「広報ぎふ」（16部）を作製し配布した。その他、岐阜県の委託により「視覚障害者福祉の手引」点字版（154ページ・304部）の製作を行った。

- (2) 岐阜県広報紙「岐阜県からのおしらせ」の音声版（月刊・デージー版 39部、テープ版 C-46・1巻124部）、テキストメール版（14通）及び岐阜市広報紙の音声版「あいメール」（月2回・デージー版13部、テープ版 C-60・1巻27部）の制作・配布を委託事業として行った。その他、岐阜県の委託により「視覚障害者福祉の手引」音声版（デージー版43部、テープ版 C-90・2巻・123部）の製作を、また、岐阜市からの委託で「障がい者の明日のために（視覚障がい抜粋版）」のSPコード製作と音声版（デージー版30部、テープ版 C-60・1巻30部）の製作をそれぞれ行った。
- (3) 日本聖公会の委託を受けて、祈祷書及び聖歌集等の点字版を希望に応じて製作した。
- (4) 岐阜県身体障害者福祉協会会報「希望」（年2回）、その他小冊子、視覚障害者団体の会議資料、及び会員向け通知文などの点字版製作をそれぞれの依頼によって行った。また岐阜県、及び各市町村選挙管理委員会の依頼による各種選挙の「候補者名簿」点字版の製作、点字の名刺の製作に協力した。
- (5) 県内公的機関の閲覧用冊子としての「岐阜県議会だより」点字版（標準サイズ43部、Lサイズ43部）、音声版（デージー版40部、テープ版40巻）を製作した。

8. 関係機関・団体との連携

- (1) 特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）及び社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）の1施設として各種事業に参加した。そのほか、全視情協、日盲社協・情報サービス部会の各種プロジェクト委員会に協力した。
- (2) 中部ブロック点字図書館連絡協議会加盟の各点字図書館相互の連携を密にし、事業の効果を上げるために積極的に協力した。
- (3) 日本図書館協会に引き続き加盟し、図書館界の情報収集に努めた。
- (4) 岐阜県図書館協会に引き続き加盟し、県内の図書館との連携に努めるほか、岐阜県図書館の音訳講座・研修会等、要請に基づいて各地域でのボランティア講座に講師を派遣した。
- (5) 隔月に名古屋市鶴舞中央図書館等を会場に開催する「東海点字研究会」に参加するとともに、その運営に積極的に協力した。
- (6) 盲学校、岐阜うかいネット（岐阜ロービジョンケアネット）、JRPS等と情報交換を行い連携を図った。
- (7) 岐阜市主催の「オンリーワンわたしたちの芸術祭」で、司会を務めた。

Ⅱ 生活支援部門

1. 生活相談・支援

- (1) 中途視覚障害者をはじめ、視覚障害者からのさまざまな相談に応じ、関係機関と連携を図りながらその解決に取り組んだ。
- (2) 岐阜大学、岐阜盲学校、岐阜県眼科医会、岐阜県眼鏡商業協同組合、岐阜県視能訓練士会等で構成する岐阜ロービジョンケアネット（うかいネット）に加盟し、各団体と連携して中途視覚障害者の相談・支援を行った。

なお、事業の実施状況は次のとおり。

- ・実施件数 22件（延べ22名）

2. 施設機能強化事業の実施

- (1) 避難訓練：第1回目は岐阜県のシェイクアウト訓練に登録し、地震を想定し机の下へもぐるなどして、頭を守った後、防災頭巾の着用をし屋外へ避難した。なお、第2回目は火災を想定しての訓練とし、それぞれの訓練は来館者に対して抜き打ちで行った。

- ・実施日 2019年9月4日(水)・2020年3月10日(火)

- (2) 防災フェスティバル2019：災害時に地域住民と障害者が自助・共助しあえる体制づくりを構築できるよう、岐阜県との共催で生活情報センターを会場に実施した。

- ・実施日 2019年12月22日（日）

- ・参加人数 約106名

- (3) 普通救命講習Ⅰ：不測の事態に備え、地域で救命活動ができるよう、視覚障害者、ボランティアを対象に行っていたが、新型コロナウイルスの影響により来年度に延期することとした。

3. 啓発活動の実施

これからの社会を担う小中校生や福祉に関心のある一般市民に対して、点字の普及、視覚障害者、盲導犬への理解を促せるよう、2019年度は岐阜盲学校のオープンキャンパスにおいて「岐阜アソシア点字体験コーナー」を実施した。

- ・実施日 2019年8月23日（金）

- ・参加人数 約20名

4. ワークショップの実施

(1) 3B体操：運動不足になりがちな視覚障害者にとって、3B体操は年齢性別に関係なく誰にでも無理なく、心身ともに健康な日常生活を送れるよう、気軽に楽しめる有益な体操である。月に1ないしは2回教室を開き、視覚障害者の健康増進を図った。

・実施回数 18回（延べ約116名）

(2) 社交ダンス：一般の社交ダンス教室には視覚障害者は入りづらい、しかしダンスを通して交流を深めたい、日ごろの運動不足を解消したい等の目的で、生活情報センター等を会場に社交ダンス教室を実施した。

・実施回数 41回（延べ約144名）

(3) 太極拳：一般の教室では型や一連の動作の流れを教えてもらいづらいとの多くの声が寄せられ、視覚障害者に理解のある講師を招いて教室を実施した。

・実施回数 22回（延べ約172名）

(4) 2019さよなら餅つき会：御輿愛好会「鶯（まっしぐら）」の協力の下、地域住民とともに視覚障害者も杵を手に昔ながらの風物詩である餅つきを楽しんだ。

・実施日 2019年12月22日（日）

・参加人数 約200名（利用者、地域住民、関係者含む）

5. 「センター交流会」及び「移動生活情報センター事業」の実施

より多くの視覚障害者の意見、要望を聞く場としてセンター交流会を生活情報センターと他地域で実施するとともに、広域な県土において、均一なサービス提供を目的に5圏域において「移動生活情報センター」を実施した。

(センター交流会)

・実施日 2019年7月7日（日）12：30～15：00

・会場 美濃加茂市生涯学習センター

・内容 最新機器紹介、電子白杖・ICT機器・グリルレンジ体験会、懇談会

・参加人数 46名（内付添・ガイドヘルパー含む）

・実施日 2020年1月13日（月）10：00～15：00

・会場 生活情報センター

・内容 冬のこたつでできる遊び体験会、懇談会

・参加人数 59名

(移動生活情報センター事業)

- ・実施日 2019年7月3日（水）12：30～15：00
- ・会場 大垣市総合福祉会館（大垣市馬場町124）
- ・内容 最新機器紹介、電子白杖・ICT機器・グリルレンジ体験会
- ・参加人数 38名

- ・実施日 2019年7月28日（日）12：30～15：00
- ・会場 古川町公民館（飛騨市古川町若宮2-1-86）
- ・内容 最新機器紹介、電子白杖・ICT機器・グリルレンジ体験会
- ・参加人数 42名

- ・実施日 2019年9月22日（日）10：00～15：00
- ・会場 ウェルフェア土岐（土岐市下石町1060番地）
- ・内容 午前…用具説明会
午後…用具体験会
- ・参加人数 53名

- ・実施日 2020年2月12日（水）10：00～15：30
- ・会場 多治見市総合福祉センター（多治見市太平町2-39-1）
- ・内容 午前…グリルレンジ料理教室
午後…日常生活用具、冬のこたつでできる遊び体験会
- ・参加人数 5名

- ・実施日 2019年9月29日（日）10：00～15：00
- ・会場 生活情報センター
- ・内容 午前…グリルレンジ料理教室、iPhone体験会
- ・参加人数 24名

6. 音声解説付き映画の普及

一般の映画上映会ではまだ十分に普及していない副音声解説付き上映会を「アソシアシネラマボイス」として定期的に毎月1日ないしは次の日に実施した。

- ・参加人数 211名

7. 読書会「本の玉手箱」の実施

読書という共通の趣味を持つ利用者、ボランティア等を対象に、本のことを自由に語れる場として隔月に1回実施した。

- ・参加人数 延べ54名

8. 「視覚障害者外出サポート事業」の充実

視覚障害者団体の行事のサポートや生活情報センターに来館した際の買い物等、同行援護事業に該当しない支援に対して「視覚障害者外出サポート事業」を行った。また、インターネットを利用した外出サポートの全国ネットワークである「全国視覚障害者外出支援連絡会」(JBOS)に引き続き加盟して、他県の外出サポート事業実施団体との連携を図った。

なお、事業の実施状況は次のとおり。

- ・実施件数 19件(延べ50名)

9. 代読・代筆情報支援事業の強化

郵便物の確認、申込書への記入等、持ち込まれた書類の代読・代筆を随時実施した。また、家庭内での代読、視覚支援サービスとして、スマホを利用した支援も行った。

- ・実施人数 6名(延べ13回)

また、スマホによる視覚支援は次のとおり。

- ・実施人数 4名(延べ4回)

10. 日常生活用具の収集・展示

視覚障害者が日常生活を営む上で便利な用具類を引き続き収集・展示して視覚障害者が気軽に試用できるよう配慮した。また視覚障害者の希望に応じて購入斡旋を行った。

11. 各種クラブ活動の推進

生活情報センターを拠点として、視覚障害者と晴眼者が共通の趣味や目的で集まるクラブ活動の場を提供し、両者の交流を促進した。センターとしては、担当者を配置した上で、①広報(視覚障害者・晴眼者双方に対して)、②会場・機材の提供、③資料(点字・墨字)の製作の3点について支援を行った。

今年度の状況は次のとおり(編みものクラブ、卓球クラブは月2回、その他はいずれも月1回)。

- (1) 料理クラブ…1997年12月発足

11名(視覚障害者7名、晴眼者4名)

- (2) 卓球クラブ…1999年2月発足

11名(視覚障害者9名、晴眼者2名)

- (3) 編みものクラブ…2006年4月発足

8名(視覚障害者5名、晴眼者3名)

(4) コーラスクラブ…2007年4月発足

15名（視覚障害者11名、晴眼者4名）

1.2. 視覚障害者福祉協会等の行事や活動への協力

(1) 岐阜県視覚障害者福祉協会が岐阜県の委託を受けて実施する視覚障害女性家庭生活訓練事業（5月～12月）に対し、「岐阜はもんの会」とともに全面的に協力した。

(2) 岐阜県視覚障害者福祉協会との共催で、「点字フォーラム2019」を行った。今年度も昨年に引き続き対象を東海地区に広げて実施した。また、競技のほか、午後のディスカッションでは、点字表記法改訂について、視覚障害者にもっと受け入れやすい点字になるよう要望することを確認した。

・実施日 11月24日（日）

・内容 午前…早読み、記憶書き、聞き書き、写し書き等

午後…みんなでディスカッション「点字表記について」

・参加人数 15名

Ⅲ 日常生活技術指導部門

1. 歩行指導の実施

歩行指導員により個別に歩行指導を行ったほか、必要に応じて歩行指導以外の生活技術指導を行った。また県内各地の社会福祉協議会等からの要請により、地域のガイドヘルパー及び一般市民に対する誘導法の普及に協力し、視覚障害者が安全かつ容易に外出できる環境作りに努めた。歩行指導の実施状況は次のとおり。

・実施人数 38名（延べ181回）ほかガイド講習会等への協力多数

2. パソコン指導の実施

視覚障害者がパソコンを介して情報収集を図り、また情報伝達を円滑に行うために、個々のニーズに応じて個別のパソコン、タブレット等の指導を引き続き実施した。

・実施人数 9名（延べ50回）

タブレット講習の実施状況は次のとおり。

・実施人数 40名（延べ130回）

3. 中途視覚障害者に対する点字学習指導

点字学習を希望する中途視覚障害者に対して、ボランティアの協力を得て個別に学習指導を行った。

点字学習指導の実施状況は次のとおり。

- ・実施人数 3名（延べ30回）修了人数 2名

4. 視覚障害者職業訓練指導

就職困難な視覚障害者や一般就労する視覚障害者に必要な技術指導を行った。また、岐阜盲学校からの依頼で、重複障害の生徒に作業実習を行った。

- ・実施人数 2名（延べ2回）

作業実習の実施状況は次のとおり。

- ・実施人数 延べ37名（延べ9回）

5. 代読・代筆情報支援事業

視覚障害者が社会参加する上で、書類の内容を読み取ることと記載することに大きな障壁がある。来館された利用者に限られてしまうが、これらの書類の代読・代筆を行った。

- ・実施人数 6名（延べ13回）

6. 相談

生活相談全般にわたっての相談を受け、適切な処理を行った。

- ・生活相談人数 96名（延べ142件）
- ・日常生活相談(用具) 88名（延べ138件）

2019年度「障害者総合支援法」による同行援護、移動支援事業報告書

社会福祉法人 岐阜アソシア

「障害者総合支援法」の同行援護、移動支援事業を行い、視覚障害者・児の社会参加を促進した。

- (1) 同行援護従業者の研修を実施し、初任者等の養成を行った。
- (2) スキルアップ研修に参加し、資質の向上を図った。
- (3) 職員と共に事務を簡素化し、事業の充実を図った。
- (4) ボランティアの協力によって行う「外出サポート事業」とのすみ分けを明確にした。
 - ア. 同行援護、移動支援の利用を優先し、制度が利用できない場合に「外出サポート」で対応した。
 - イ. 同行援護、移動支援利用のコーディネートは、職員が行った。
- (5) その他に、ガイドヘルパーと労働契約を結ぶ準備を進めるとともに、就業規則など関係書類の整備に着手した。

契約市町村数	32	市町村
利用契約者数	183	人
利用延べ回数	7,096	回（延べ時間 32,136.5時間）